

熊本地震は三浦半島と同じ活断層型地震。
類似点と対策を調査してきました!!

— 熊本地震現地調査報告と三浦の活断層

SAITO
CONSTRUCTION



熊本地震は三浦半島と同じ活断層型地震。 類似点と対策を調査してきました!!

— 熊本地震現地調査報告と三浦の活断層

2016年4月16日午前1時25分、熊本県を中心とする震度7の地震が発生いたしました。まずはお亡くなりになられた方、避難生活をされている方にお悔やみと、1日も早い日常生活への復帰をお祈り申し上げます。

5月5日から6日に熊本地震の視察に行ってきました。

斎藤工務店では以前より地震に強い家づくりに力をいれており、新築だけでなく、既存住宅の耐震補強工事の実績もかなりの棟数になります。地震に関する研究は年々進歩しており、我々も日々勉強しております。

熊本地震は活断層型地震で、三浦半島の活断層と類似している部分があります。今年の1月時点での地震発生確率は熊本と三浦半島はほぼ同程度でした。

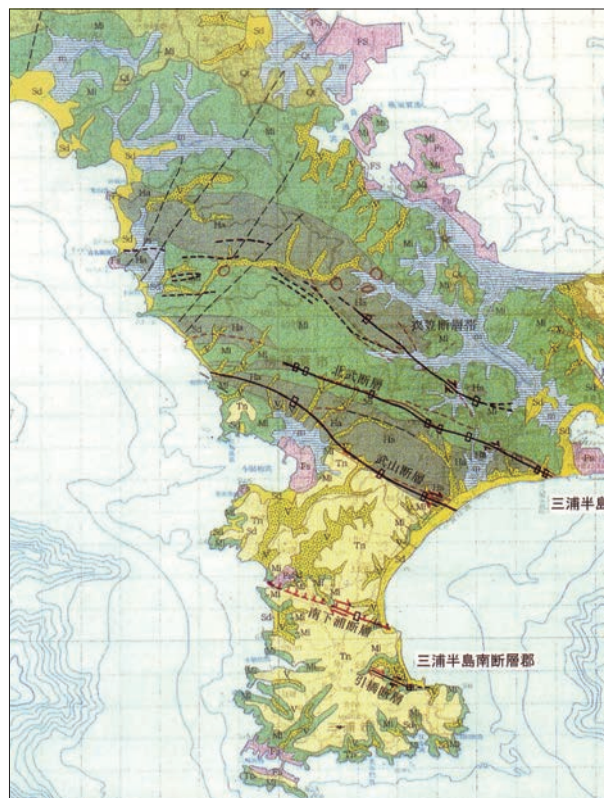
(下図表参照)



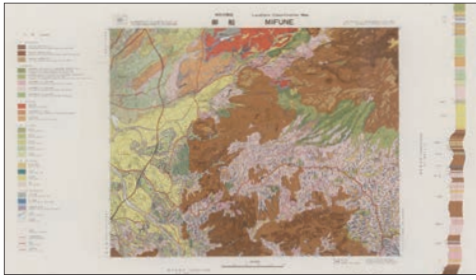
4階建ての建物が倒壊し、3階建てのようになってしまった様子。
地震の恐ろしさをまざまざと見せつけられる。

	熊本地震 (布田川・日奈久)	三浦活断群 (衣笠・北武・武山)
地震発生確率 ^{※1}	16%	11%
最大震度	震度 7	-
マグニチュード	7.3	6.6~7.0(予想) ^{※2}
地震による地面のズレ	1m	1~2m

※1 政府地震本部長期評価(2016年1月13日)、30年以内の発生確率
 ※2 政府地震本部三浦半島断層群の長期評価について(平成14年10月9日)



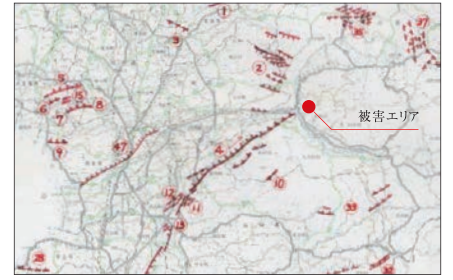
熊本地震は活断層型地震。
熊本の活断層と三浦の活断層とで類似している部分がある。



益城町は軟弱地盤（地形分類:段丘・谷底低地）に分類される。



南阿蘇村では、このような比較的新しい家でも被害が多く見られた。



熊本県の活断層マップでは、南阿蘇村まで活断層は届いていなかった。

地震の現地調査は阪神淡路、白馬に続いて3回目になります。今回は南阿蘇村、益城町、熊本城の3カ所を視察してきました。

〈視察地①〉南阿蘇村

TVでも毎日のように中継されていた南阿蘇村。地震による地割れの映像は皆さまもご覧になったと思います。ここでまず驚いたのが、この村は布田川断層の延長に位置していますが、手に入れた熊本県の活断層マップでは、この村までは活断層は届いていない事になっていたのです。

また、比較的新しい家にも被害が多く見られました。いくら丈夫な家でも支えている地面が動いてしまうと、やはり大きな被害がでるようです。あと、被害エリアが非常に局地的だったのにも驚きました。地割れによる大きな被害がでていたのは大きな断層を中心に左右100m程度の幅でした。

〈視察地②〉益城町

こちらでもTVで毎日放送されていた被害集中エリア。ここは断層にも震源にも近いエリアで、しかも軟弱地盤（地形分類：段丘・谷底低地）。断層型地震（阪神淡路も白馬も熊本も三浦も断層型地震）の特徴ですが、震源に近くても地盤がしっかりしているエリアの被害は少なく、震源から距離があっても軟弱地盤のエリアのほうが、被害が大きい事がよくあります。これは地震の揺れが軟弱地盤の場合、増幅されることよって起こる現象です。三浦活断層群で地震が発生したときに被害が大きくなると思われるエリアも軟弱地盤エリアです。



益城町の倒壊した建物。軟弱な地盤の影響が大きい。



益城町近くで見られた地割れ。

※掲載の写真は当社現地調査時に撮影したものです。



たび重なる激震によって、間知擁壁は甚大な被害を受けた。



数回の地震によって、強度が徐々に低下した新耐震の建物は、倒壊こそしていないものの大きなダメージを受けた。



何度も起こった地震の影響によって、木造3階建てアパートは倒壊こそしていないものの大きなダメージを受けた。

今回の地震では多くの方がお亡くなりになりましたが、その7割が家屋倒壊によるものです。そしてその多くは旧耐震と呼ばれる昭和56年6月以前に建てられたものでした。その当時に建てられた家は耐震性が劣り、震度7の強震で倒壊する恐れがあります。対策としては耐震補強工事を行って耐震性を上げることができですが、九州地方は地震に対してあまり関心が高くなかったようで、耐震補強工事を行っている家が非常に少なかったようです。横須賀市でも助成金(上限100万円)がありますので、是非活用して下さい。

また、昭和56年以降に建てられた、いわゆる新耐震基準の建物にも被害が多く見られました。平成12年以降の一番厳しい基準の家にも被害が見られましたが、かなり被害は少なくなります。新耐震の建物に被害が大きくてた理由は地震の回数と言われています(震度7が2回、14日から18日までに観測した震度4以上の地震が79回)。今までの建築基準法ではこのような揺れは想定していませんでした。今現在、繰り返しの揺れに

対して有効と言われているのは「制振装置」です。当社でも今年に入って制振の設置が増えていきます(新築で4件、既存のリフォームで1件設置実績があります)。

また、熊本の視察中に見られました現地の工務店の動きにも感銘を受けました。瓦が落ちた家にブルーシートを張ったり、倒壊しそうな危険な状態の建物を解体したり、お客様に電話をかけ安否の確認と困っている事がないか話を聞いたり。工務店としてお客様を優先した動きはとても素晴らしい、斎藤工務店もいざというときにはこうありたいと感じました。

また、やはり平成12年以前の家は耐震補強工事を行うか、少なくとも一度耐震診断を受けられることをお勧めいたします(昭和56年以前は強くお勧めいたします)。エリアよっての被害予想の差もありますので、工事も含め助成金等に関しましても色々気になる事がございましたら、ご相談下さい。

耐震補強のご相談、助成金などのお問い合わせ、その他のご相談は同封のがきよりお申込み下さい。

SAITOU 株式会社 各種お問い合わせはお気軽にフリーダイヤルまでどうぞ。
 齋藤工務店 0120-882-310

〒238-0034 神奈川県横須賀市金谷 2-2-1 【TEL】046-852-3333(代) 【FAX】046-851-0034
 【URL】www.saitou-koumuten.com 【Mail】info@saitou-koumuten.com



c la↓ss

class(くらす)は、湘南三浦エリアのライフスタイルを紹介する地域情報誌です。

発行日：2016年7月1日 デザイン：齋藤 圭祐
 発行・編集・写真：株式会社 齋藤工務店

タイトルの「くらす」は、生活するという意味であり、横須賀を中心とするエリアに暮らす人々がひとつにまとまるという意味を込めた、英語のclassの意味でもあります。またclassには上品という意味があり、この会報誌もその意味にふさわしいものでありたいと願う気持ちを込めています。